

主要 AI 企業の Deep Research (深層調査)

機能に関する包括的分析 - 2025 年 4 月

Genspark

1. エグゼクティブサマリー

本レポートでは、過去 3 カ月間 (2025 年 1 月中旬~4 月中旬) に主要 AI 企業が発表した Deep Research (深層調査) 機能について、技術概要、提供形態、ビジネス応用事例、収益モデル、および競合他社との差別化戦略に焦点を当てて調査を行いました。

調査の結果、OpenAI、Google、Microsoft、Anthropic、Perplexity などの主要 AI 企業が、高度な深層調査機能をそれぞれ独自の方法で市場に投入していることが判明しました。これらの機能は、マルチステップのオンラインリサーチを自動化し、複数の情報源から包括的なレポートを生成することを可能にしています。各社のアプローチには相違点がありますが、共通して企業価値として、1) 調査時間の大幅な短縮、2) 情報収集と分析の質の向上、3) 意思決定プロセスの効率化が挙げられます。

特に注目すべきは、各社の深層調査機能の価格戦略と、ターゲットとする顧客層の違いです。OpenAI の高額なプレミアムプランから、Google や Perplexity の比較的手頃な価格帯まで、市場は多様な選択肢を提供しています。また、金融、医療、法律、マーケティングなど様々な業界での応用事例が報告されており、2025 年後半にはさらなる普及が見込まれています。

2. 調査の背景と方法

2.1 調査対象の主要 AI 企業

- OpenAI
- Google (DeepMind/Gemini)
- Microsoft (Copilot)
- Anthropic (Claude)
- Perplexity AI
- その他 (Mistral AI、DeepSeek など)

2.2 調査期間

2025 年 1 月中旬~2025 年 4 月中旬に発表された Deep Research 機能およびそれに類する高度

な分析・調査機能

2.3 情報収集方法

- 各社の公式発表、プレスリリース、技術文書
- 業界専門家によるレビューと分析記事
- 導入企業の事例報告と結果分析
- 競合比較と市場分析レポート

3. 各社の Deep Research 機能の技術概要と提供形態

3.1 OpenAI - Deep Research

技術概要

OpenAI の Deep Research は、OpenAI o3 モデルをベースに、ウェブブラウジングとデータ分析に最適化された機能です [OpenAI](#)。主な技術的特徴として：

- 複雑なタスクに対するマルチステップのオンラインリサーチを自律的に実行
- リアルタイムで情報を解釈・分析し、必要に応じて探索方向を調整する機能
- ユーザーがアップロードしたファイルの閲覧、Python ツールを使用したグラフ作成・反復処理
- ウェブサイトから生成されたグラフや画像をレスポンスに埋め込む機能
- ソースからの特定の文章や段落を引用する能力

2025 年 2 月に発表され、ベンチマークテスト「Humanity's Last Exam」では 26.6%の精度を達成しており、従来の AI モデルと比較して特に化学、人文社会科学、数学分野で大幅な性能向上を示しています [flow.db.com](#)。

提供形態

OpenAI の Deep Research は現在、ChatGPT のメッセージ作成画面内で利用可能な機能として提供されています：

- 当初は Pro ユーザー（月額\$200）向けに提供
- 2025 年 2 月 25 日から Plus ユーザー（月額\$20）にも拡大
- 現在、米国、英国、スイス、欧州経済領域で利用可能

3.2 Google - Gemini Deep Research

技術概要

Google の Deep Research は、Gemini 2.5 Pro Experimental モデルを活用しており、産業界の推論ベンチマークと Chatbot Arena で高評価を得ています [blog.google](#)。主な特徴：

- 複数の情報源（テキスト、音声、画像、動画）からの大規模データセットを理解
- ユーザーガイド型の研究計画フェーズを含む、複数ステップの検索プロセス

- Google 検索エンジンとの統合による幅広いドキュメント収集と引用
- Audio Overviews 機能によるレポートをポッドキャスト形式での音声変換
- 多言語サポートと国際的な情報源へのアクセス

提供形態

Gemini Deep Research は以下の形で提供されています：

- Google One AI Premium (Gemini Advanced) サブスクリプション (約\$19.99/月) の一部として提供
- Android、iOS、ウェブ全てのプラットフォームで利用可能
- 150 カ国以上、45 言語以上をサポート
- Google Workspace ユーザー向けの特別バージョンも提供中

3.3 Microsoft - Researcher in Microsoft 365 Copilot

技術概要

Microsoft は 2025 年 3 月 25 日に、Microsoft 365 Copilot に「Researcher」機能を追加しました [Microsoft 365 Blog](#)。この機能は：

- OpenAI のディープリサーチモデルと Microsoft 365 Copilot のオーケストレーション・ディープサーチ機能を統合
- 社内の業務データ（メール、会議、ファイル、チャット等）とウェブ上の情報に安全にアクセス
- 第三者データ（Salesforce、ServiceNow、Confluence など）との連携機能
- セキュリティとコンプライアンスを遵守した企業用リサーチツール

提供形態

Researcher は、Microsoft 365 Copilot の新機能として：

- 2025 年 4 月から Microsoft 365 Copilot ライセンス保有者向けに提供開始
- 新たな「Frontier」プログラムの一環として、開発中の新機能への早期アクセスを提供
- Copilot Studio や Copilot Control System との統合

3.4 Anthropic - Claude Research

技術概要

Anthropic の Research 機能は、Claude AI アシスタントに追加された新機能で [Anthropic](#)：

- 相互に関連する複数の検索を自律的に実行する「エージェントック」アプローチ
- 質問の多角的な側面を自動的に探索し、体系的に未解決の問題に対処
- 検証可能な引用を含む包括的な回答を提供
- Google Workspace (Gmail、Calendar、Google Docs) との統合機能

提供形態

- Max、Team、Enterprise プラン向けに早期ベータ版として提供

- 現在、米国、日本、ブラジルでの利用が可能
- ウェブ検索機能は、これらの地域の有料プランで自動的に有効化
- Google Workspace 統合はプロファイル設定でベータトグルを通じてアクセス可能

3.5 Perplexity - Deep Research

技術概要

Perplexity の Deep Research 機能は、2025 年 2 月に発表され [Perplexity](#) :

- 数十の検索を実行し、数百の情報源を読み取り、材料を推論して包括的なレポートを自律的に作成
- ウェブスクレイピング、データ抽出、分析・統合、レポート生成の多段階プロセス
- 検索と推論を反復的に行い、主題についての理解を深めながら研究計画を洗練
- レポートを PDF や文書形式でエクスポート、または Perplexity Page として共有する機能

提供形態

- ウェブで利用可能で、iOS、Android、Mac にも近日中に展開予定
- 基本アクセスは無料（1 日数回のクエリ制限あり）
- Pro サブスクリイバー（約\$20/月）は無制限の Deep Research クエリが可能

4. ビジネス応用事例と導入企業

4.1 金融サービス業界での応用

金融サービス業界では、Deep Research 機能が複雑な市場分析や投資調査を効率化しています:

- **北米の大手投資ファーム**：SambaNova AI のオープンソース Deep Research ツールを導入し、何百人もの取引デスクアナリストの日々の調査作業を支援 [SambaNova AI](#)
- **Deutsche Bank Research**：OpenAI の Deep Research を使用して、米国の鉄鋼・アルミニウム関税に関する 9,000 語の詳細レポートを 8 分で作成。この調査は通常、人間が数ヶ月かかる作業であった [flow.db.com](#)
- **金融アナリストの生産性向上**：AI ツールにより、ビジネス文書の作成速度が 59%向上し、デベロッパーのプロジェクト完了率が 126%増加 [The Business Dive](#)

4.2 マーケティングおよびビジネスインテリジェンス

マーケティングと市場調査分野では、迅速な競合分析と意思決定支援に Deep Research 機能が活用されています:

- **Ipsos**：Google Gemini 1.5 Pro と Flash モデルを活用したデータ分析ツールを市場調査チーム向けに構築し、時間のかかるリクエストを排除 [Google Cloud](#)
- **DesignRush**：市場調査と競合分析のプロセス短縮に OpenAI Deep Research を活用

[PYMNTS.com](https://pymnts.com)

- **Brighter Click**：マーケティング戦略と競合企業の感情分析に Deep Research 機能を導入 [PYMNTS.com](https://pymnts.com)

4.3 製造業と技術分野

製造業と技術分野では、特許調査や技術動向分析に Deep Research 機能が貢献しています：

- **IPRally**：1 億 2,000 万以上のグローバル特許文書を検索する特許検索プラットフォームを構築 [Google Cloud](https://google.com)
- **Kitcast**：知的財産の規制コンプライアンス確保のために Deep Research 機能を活用 [PYMNTS.com](https://pymnts.com)
- **Code Metal**：製薬業界向けの徹底した技術研究と文献調査を自動化 [PYMNTS.com](https://pymnts.com)

4.4 その他業界の応用例

- **Prewave**：サプライチェーンデータ分析によるエンドツーエンドのリスクモニタリングを提供 [Google Cloud](https://google.com)
- **Geotab**：BigQuery と Vertex AI を使用して、460 万台以上の車両から収集した数十億のデータポイントを分析し、フリート最適化と輸送分析を実現 [Google Cloud](https://google.com)
- **教育機関**：学生の深層リサーチスキル開発と学術研究をサポート [DataCamp](https://datacamp.com)

5. 収益モデルと価格体系

各社の Deep Research 機能は、異なる価格帯と収益モデルで提供されています：

5.1 価格比較表

企業	サービス名	価格体系	利用制限	対象ユーザー
OpenAI	Deep Research	Pro: \$200/月 Plus: \$20/月	Pro: 100 クエリ/ 月 Plus: 不 明	高度な専門的 調査が必要な ユーザー
Google	Gemini Deep Research	\$19.99/月 (Google One AI Premium)	なし	一般的な調 査・ビジネス ユーザー

企業	サービス名	価格体系	利用制限	対象ユーザー
Microsoft	Researcher	Microsoft 365 Copilot ライセンスの一部	不明	企業ユーザー
Anthropic	Claude Research	Max プランなどの Claude 有料プランに 含まれる	不明	ビジネスユーザー
Perplexity	Deep Research	無料：制限付き Pro: \$20/月	無料：5 クエリ/ 日 Pro: 無 制限	学生、ジャー ナリスト、一 般ユーザー

[ByteBridge \(Medium\)](#)

5.2 サブスクリプションモデル

大半の企業が月額サブスクリプションモデルを採用しており、基本的な機能を無料または低コストで提供し、高度な機能に対して課金する階層型モデルが主流です。OpenAI は当初、Deep Research 機能を最も高額な Pro プラン（\$200/月）専用としていましたが、後に Plus プラン（\$20/月）にも拡大しました [Helicone.ai](#)。

5.3 企業向けプラン

エンタープライズ向けには、カスタム価格設定と拡張機能を備えたエンタープライズプランが提供されています。Microsoft の Researcher は Copilot ライセンスの一部として提供されており、企業の既存のソフトウェア投資と統合されています。

5.4 オープンソース選択肢

SambaNova AI などの企業は、オープンソースモデル（例：Llama 3.3 70B）に基づく Deep Research 機能を提供し、プロプライエタリモデルに比べてコスト効率の高い選択肢を提案しています。この選択により、企業は年間 100 万ドル以上のコスト削減が可能とされています [SambaNova AI](#)。

6. 競合分析と差別化戦略

6.1 機能面での比較

各社の深層調査機能の主な差別化ポイント：

企業	強み	弱み	差別化ポイント
OpenAI	詳細な分析能力 構造化レポート生成 高度な推論能力	高コスト 幻覚の可能性	最も詳細な分析 Python コード実行 機能
Google	Google 検索エンジンとの 統合 グローバルリーチ 手頃な価格	浅い分析 SEO バイアス	多言語サポート Google エコシステ ム連携
Microsoft	ビジネスデータとの統合 エンタープライズ向けセキュ リティ	限定的な対象ユ ーザー	業務データとの統 合 Copilot エコシステ ム
Anthropic	Google Workspace との統 合 倫理的 AI	まだ発展途上の 機能	メール・カレンダー 連携 透明な引用システ ム
Perplexity	高速な処理 無料枠の提供 デベロッパAPI	出力の詳細さで 劣る	スピード重視 簡潔なレポート生 成

[Seer Interactive](#), [Helicone.ai](#)

6.2 ベンチマーク比較

「Humanity's Last Exam」などのベンチマークテストでは、各社の Deep Research 機能の性能差が明らかになっています：

- OpenAI Deep Research: 26.6% (業界最高)
 - Perplexity Deep Research: 20.5%
 - その他の主要なモデル (Gemini Thinking、DeepSeek-R1 など) は上記を下回る値
- また、SimpleQA ベンチマーク (事実性を評価する数千の質問) では：
- Perplexity Deep Research: 93.9%の精度

[Perplexity](#)

6.3 業界別適合性

各社の Deep Research 機能は、特定の業界や用途に対して異なる強みを持っています：

- **OpenAI Deep Research**：金融、科学・工学、法律など、複雑な専門的調査を要する分野に最適
- **Google Deep Research**：マーケティング戦略、一般的なビジネスリサーチ、国際的な調査に向いている
- **Microsoft Researcher**：企業内の既存データと統合した総合的な分析が必要な業務に最適
- **Anthropic Claude Research**：Gmail、Calendar、Docs との統合を活かせる業務効率化に強み
- **Perplexity Deep Research**：ジャーナリズム、迅速な調査、コスト効率重視のユーザーに適している

[ByteBridge \(Medium\)](#)

7. 生産性向上と経済的インパクト

7.1 時間節約効果

Deep Research 機能による業務効率化の具体的な数値：

- 一般的に人間が数時間～数日かかる調査作業を数分で完了
- 企業の市場調査で 10 時間以上のブラウジング時間を削減 [DataCamp](#)
- 特許調査など専門性の高い作業で数週間のプロセスを 1 日に短縮

7.2 生産性向上統計

AI 技術全般による生産性向上の客観的データ：

- AI の採用により、米国の年間労働生産性が 2.9% 向上 [The Business Dive](#)
- 生成 AI ツールによる労働生産性の年間 0.1%～0.6% の増加 (2040 年まで) [The Business Dive](#)
- ビジネスプロフェッショナルは、AI を使用して 1 時間あたり 59% 多くのビジネス文書を作成可能 [The Business Dive](#)
- デベロッパーの生産性が 88%～126% 向上 [The Business Dive](#)

7.3 ROI (投資対効果) の分析

Deep Research 機能への投資による ROI の事例：

- SambaNova AI の推計によれば、オープンソース Deep Research ツールの利用で、200 人規模の企業が年間 100 万ドル以上のコスト削減可能 [SambaNova AI](#)

- マーケティング分野では、Deep Research 機能によるマーケットトレンド調査の効率化で、広告キャンペーンのクリックスルー率が 80%改善した事例あり [Google Cloud](#)
- 財務分析において、数ヶ月かかる市場分析を 1 日以内に完了可能になり、意思決定プロセスを大幅に高速化

8. 今後の展望と課題

8.1 技術的な進化の方向性

Deep Research 機能は以下の方向で進化していくと予測されます：

- より高度なマルチモーダル能力（音声、画像、動画の理解と統合）
- AI 自己改善機能の強化（検索→分析→推論のサイクルの洗練）
- カスタマイズ可能な調査パラメータと出力フォーマット
- サードパーティデータベースとの連携拡大

8.2 規制環境と倫理的課題

Deep Research 機能の普及に伴い、以下の課題への対応が重要になります：

- データプライバシーと著作権問題（調査対象の情報源に関する法的問題）
- 情報の正確性と出典の透明性の確保
- 「幻覚」（事実に基づかない情報生成）問題への対応
- 業界・地域特有の規制要件への適合

8.3 市場予測

2025 年後半から 2026 年にかけての Deep Research 市場の展望：

- 企業向け高度なカスタマイズオプションの増加
- より特化した産業別 Deep Research ソリューションの登場
- 価格競争の激化と機能の標準化
- 中小企業向けの手頃な価格のソリューション拡大
- オープンソースの調査ツールキットの成長

9. 結論

主要 AI 企業が提供する Deep Research 機能は、2025 年前半に大きな発展を遂げ、ビジネスの調査・分析プロセスを根本的に変革しつつあります。OpenAI、Google、Microsoft、Anthropic、Perplexity など各社は、それぞれ異なるアプローチで深層調査機能を提供しており、価格帯、性能、ターゲットユーザーにおいて差別化を図っています。

ビジネス面では、これらの機能は調査時間の大幅な削減、詳細な分析の自動化、意思決定プロセスの効率化という明確な価値を提供しています。特に金融、マーケティング、製造業、技術

研究分野では、すでに具体的な導入事例と成果が報告されています。

ただし、「幻覚」や事実確認の問題、著作権やデータプライバシーに関する懸念など、克服すべき課題も残されています。今後は、より高度なマルチモーダル能力の追加や業界特化型ソリューションの登場など、さらなる技術的進化が予想されます。

企業が Deep Research 機能を選択する際は、調査の深さや詳細さの要件、既存の IT 環境との統合性、コスト効率、および特定の業界ニーズへの適合性を考慮することが重要です。各社の差別化戦略と価格モデルを理解し、自社のビジネスニーズに最適なソリューションを選択することで、最大の投資対効果を得ることができるでしょう。

10. 参考文献

- [OpenAI: Introducing deep research](#)
- [Google Blog: Deep Research is now available on Gemini 2.5 Pro Experimental](#)
- [Microsoft 365 Blog: Introducing Researcher and Analyst in Microsoft 365 Copilot](#)
- [Anthropic: Claude takes research to new places](#)
- [Perplexity: Introducing Perplexity Deep Research](#)
- [Deutsche Bank: AI deep research – is this a gamechanger?](#)
- [PYMNTS.com: OpenAI's 'Deep Research' Aims to Impact Business Intelligence](#)
- [Google Cloud: Real-world gen AI use cases from the world's leading organizations](#)
- [ByteBridge \(Medium\): Comparing Leading AI Deep Research Tools](#)
- [SambaNova AI: Open-Source Deep Research Agents](#)
- [The Business Dive: 13 AI Productivity Statistics That Will Blow Your Mind For 2025](#)
- [DataCamp: OpenAI's Deep Research: A Guide With Practical Examples](#)
- [Seer Interactive: Google Deep Research vs. OpenAI Deep Research](#)
- [Helicone.ai: OpenAI Deep Research: How it Compares to Perplexity and Gemini](#)